

美しいトンボたちの世界を覗く

秋津優美, 兼子純一, 篠田奈菜子

Yumi Akitsu, Junichi Kaneko, Nanako Shinoda

奈良県立奈良高等学校

【キーワード】 分布調査, 出現時期, 生活環, 環境, 生物模倣技術

1. はじめに

トンボは、かつては身近に生息し多くの種が見られたが、環境の変化で個体数が減少し、多くの種がいなくなったのだという。各地でトンボの保護活動があるが、トンボの保護には水環境やその周辺の林が必要であり、容易ではない。

奈良高校は今年、法蓮学舎から高の原へ移転した。法蓮学舎の中庭には池があり、また校舎の北側には神社の池がある。池では毎年トンボが羽化し、生物部が観察・写真撮影・幼虫飼育の対象としてきた。

法蓮学舎と現校舎のあいだには、巨大な古墳や池が複数ある。樹林があり堆積物の多い古墳の堀や、開けた大きな池、畑や荒地があり、野鳥をはじめ、さまざまな生物を観察するのに適地となっている。トンボの羽化は6～7月がピークであるが、春先から秋まで観察すると、さまざまな種が時期をたがえて羽化していることがわかる。国内で見られる約200種りのうち、ここで約30種の普通種を見ることができる。希少種はいない。

今回は、7月の観察のようすをポスターで紹介した。まずは、この地域におけるトンボの生息状況の記録が重要であると考えている。

2. 目的

地域に生息するトンボの種を記録する。今後の分布調査、出現時期と出現条件の把握、生活環の解明などにつなげる。

3. 方法

6月上旬から10月下旬にかけて現地を訪れ、成虫の写真を撮る、捕獲する、写真撮影や捕獲の難しい種については、その行動パターン（特徴的な飛翔、止まり方、産卵の仕方など）や明瞭な色彩などから種を同定し記録する。羽化殻を採集し、幼生の生息状況を把握する。産卵の対象となる沈水植物を採集・同定する。沈水植物や水底表面の沈水物を持ち帰り、生息するプランクトンなどを記録する。



図1 チョウトンボの翅脈

4. 結果

期間中に約30種のトンボを記録し、そのほとんどを写真に記録した。ヤンマ類など飛翔能力の高い種は写真撮影も捕獲も難しく、目視での記録となった。イトトンボ類や小型から中型のトンボ類（不均翅亜目）の多くは撮影できた。個体数の多い種は次の10種である。

キイトトンボ／ベニイトトンボ
クロイトトンボ／アオモンイトトンボ
ギンヤンマ／ウチワヤンマ／チョウトンボ
コシアキトンボ／ウスバキトンボ
オオシオカラトンボ

このうちウチワヤンマが6月上旬に最もはやく出現する。出現のピークは7月上旬から中旬であり、チョウトンボがその多くを占める。10月下旬には夏とは別の種が見られる。

5. まとめ

この地域のように樹林・堀・池・畑・荒地など多様な環境があると、トンボをはじめ多くの種類の生物が出現する。調査を継続したい。また生物模倣技術については、専門家のご指導をいただきたいと考えている。

引用文献

1) 『原色日本昆虫生態図鑑トンボ編』（保育社）